

## 令和2年度 第4回千歳市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 令和3年2月25日（木）14時00分～15時55分

会 場 総合福祉センター402号室

出席者 横田会長、島倉委員、高橋委員、中村委員、高本委員、吉田委員、五十嵐委員、  
榊原委員、廣島委員、荒井委員、二ツ屋委員、石川委員、池下委員、斉藤委員、  
杉澤委員、瓜生委員、野田委員、栗重委員

欠席委員 小林副会長、三戸部委員、藤本委員、杉浦委員、古林委員、川本委員、伊藤委員

事務局 企画部交通政策担当 富成主幹、小椋主査、峯田主任

オブザーバー 日本工営株式会社札幌支店 中山課長、白石課長補佐

傍聴者 0名（随行者2名 道南バス(株)札幌営業所副所長、石狩振興局地域政策課主査）

### 【次 第】

- 1 開 会
- 2 協議事項
- 3 話題提供
- 4 閉 会

### 【協議結果】

- ・協議事項（1）～（3）について、承認された。

### 【会議要旨】

#### 2 協議事項

- （1）令和3年度事業計画（案）及び予算（案）について  
（事務局より資料1に基づき説明）  
（一同：質問、意見なし。）

- （2）交通空白地有償運送の更新登録申請について  
（長都・中長都・釜加デマンドバス運行協議会）  
（事務局より資料2に基づき説明）  
（一同：質問、意見なし。）

- （3）千歳市地域公共交通計画及び千歳市地域公共交通利便増進実施計画の策定について
  - ①千歳市市民アンケート結果
  - ②冬季乗降調査結果（速報値）
  - ③各計画の策定概要（日本工営(株)より資料3-1、3-2、事務局より資料3-3に基づき説明）

(委員)

教えていただきたいのだが、資料3-1の9ページにある図について、例えば千歳駅からエリア9に矢印があって21%と書いてあるけれども、この中で丸い矢印で31%と書いてある意味は何であるか。

(事務局)

矢印については、人の移動を示しているものであり、ぐるっと円を描いた矢印は、例えばエリア9の31%は、エリア9に住んでいる方で、エリア9の通勤先・通学先に移動されている方が31%ということで、エリア内での移動をされている方のパーセンテージという表現になっている。

(委員)

地域間ではなく、エリアの中で動いていることか。

(事務局)

そういう認識である。例えば若草から臨空工業団地に働きに行っている方がこの中に入ることになる。

(委員)

その数字とあちこちから矢印がきているが、それとの関係はあるのか。

(事務局)

例えばエリア9に移動されている方が、エリア8から22%、エリア6からも22%となっているが、これはエリア8からアンケート調査結果を得た人のうち、22%の方が向陽台方面に働きに、もしくは学校に通われているといったことなので、特にこの数字がエリア9の中の人口と相関があるかという関係はない。目的地としてエリア9に行っているという数値になる。

(委員)

大体分かった。それからもう一点、資料3-2の9ページであるが、市民病院乗降者人数比較表ということで、コロナウイルスで人数が減ったとなっているが、これは、コロナウイルスで病院に行く人が少なくなったという解釈でよろしいのか。

(事務局)

コロナウイルスかどうかと聞かれると100%そうだとも言い切れないが、傾向としてはコロナウイルスの関係で通院の頻度を減らすとか、そういうことがおきているのではないかと推測される。

(委員)

私も病院に通っている一人なのだが、各病院に行く人が少なくなったと、これは現実である。裏を返してみると、行かなくてもよかったということになるのではないかと思った。この表現が正しいのかなと疑問に思ったため、発言させていただいた。

(会長)

今の部分について少し補足させていただくが、やはり実態としては昨年の4月以降、病院に通われる方が少なくなっているという実態が、特に市民病院は、それが顕著にでてきている。4月以降に診療を制限したり、外来の制限をしたり、これについては今年1月の調査結果であるけれども、昨年の12月からインフルエンザがほとんどなかったようだ。それは手洗いなどを徹底しているという裏返しでもあるのだが、その関係で小児科などで極端に患者さんが減っているという実態があるので、この辺のデータのおさえ方としては、この通りだと思っている。

(委員)

確認したいのが、先程日本工営の方でご説明された中の資料3-1の35ページ、新型コロナウイルス感染症による影響についてというところだが、左の表を見ると特に気にせず利用しているとか不安はあるけど利用しているというのが66%くらいあり、30%が利用減少・利用をやめたとなっている。右側の表を見ると、分析の仕方は分からないのだが、利用している方の回答とあるので、1割程度減少したとかいろいろあるけれども、61%が5割以上減少というのが衝撃的な数字であった。

他のバス事業者さんはどうか分からないが、私はこういう数字を見るとそうかなと思う。5割以上減少した人が6割ということが、今まで月に20回乗っていたけど10回になったという意味なのかどうか分からないけれども、すごい数字だなと思った。こんなに減っているのかと。それは1月の利用実態調査で(資料3-2)5ページに、去年の1月と去年の9月と今年の1月を比較してそれなりに減っている。3割、20%以上利用したところもある。こんなに酷いかなと思ったのだからいかがか。

(事務局)

補足して説明すると、資料の3-1の35ページ目のコロナウイルスの影響の関係であるが、これについては、左の円グラフの利用頻度を少なくしている23%の内、どのくらい減少したかということを示しているので、全体で5割以上減少したというのが61%いるわけではなく、全体の中の23%の内、61%といったことであるので、こちらの円グラフについてはそういう理解をいただければと思う。

(会長)

ほかにいかがか。このアンケートの回収率37%は、行政は色々アンケート調査をやっているけれどもかなりよい数字かなという気がするのだが、日本工営さんでは、そこについてどのような捉え方をしているか。

(日本工営)

色々な自治体や民間のアンケートもやっているけれども、自治体であると概ね3割が一般的なところかなと、今までの経験として感じているところであるので、回収率としては、今回は高い方だと思っている。

(会長)

私の方からもう一点。バスの乗降調査が1月26日(火)ということであるが、この火曜日というのは一週間の中での変動が少ないだとか、今までの各年度の調査がほしい火曜日とかそういう一つの取り方などあったのか。

(日本工営)

曜日というよりは、学校の通学状況だとか、また、この時期は、もう少し後だと支笏湖でお祭りが始まって臨時のバスとかも出たりするので、そういうところと被らないようになるべく通常時ということで今回の調査日を決定した。

(会長)

ほかにいかがか。特になければ、また後で気が付いたことがあればお聞きしていただければ思う。資料3-3について先程も少しお話ししたように、次の計画の頭出しのような形で13ページ以降、現状と課題のまとめから色々な方向性ということで記載があるけれども、その辺りについて何か確認したいことがあれば、ご意見等も含めご発言お願いしたいと思うがいかがか。

(委員)

市民のニーズというところで、本数を増やしてほしいというようなご意見が常に出る。利用時間に合わない。これは各バス会社の損益分岐点もあり、市の補助金額も決まっていると思うのだけれども、今日はハイヤー協会の五十嵐委員も来られているので、タクシーとバスを上手く組み合わせることができないのか伺いたい。

タクシーは、昼間流しているところが多い、あるいは駅や病院でステイしていることが多いような気がする。現状、空港もほとんど動かないだろうし、その中でバスの路線の本数というのもやはり限度があると思う。その間バスの路線の表示の横などにでも、タクシーの通過する時間帯の表示があれば。ある程度定期的な時間帯で回れないのかと思う。千歳は若いまちといってもこれからどんどん高齢化していくわけなので、大型のバスで人数を運ぶというのは、朝と夜と、ある程度集中しているわけなので、その間の時間帯をうまく利用してタクシーで、まあ少人数ですけれども多ければタクシーの無線で応援を頼むということを臨機応変というか、そのようなことはできないのかなと思って聞きたい。

(会長)

ハイヤー協会の五十嵐委員、何かあるか。

(委員)

急にそういうお話しがあったが、バスは路線バスということで、決まった路線を走るということになるが、基本的にタクシーは、駅など、まちを流すというかたちで、バス停に待機、またはバスの運行する路線をながしながらバスのお客様を乗せるということは、現実的に不可能ではないが、タクシーはメーター料金ということになるので、そこで乗合バスの認可を取り、また、タクシーではなく路線バスのお客様を乗せる目的のために走るとなると非常に複雑な運行になるということと、今申したように料金的なものなど、様々なことがあるので、今すぐにできるということではないが、可能性としてはあるということ。

また、今おっしゃった話にあるように、タクシーがコロナ禍で非常に暇な状況で、空港もほとんど動かないということで、今は各社さんも雇用調整金ということで乗務員の数を減らしながら運行しているということで、今の状況でいくと、日中だけがそこそこお客様がいて、夜は全くいないということで、その中で調整しながら運行している。利益を上げるために札幌辺りはデリバリーなどをやっていることもあるが、千歳は現実にも非常に厳しいのは間違いないが、可能性としては今後検討する余地はあるのではないかなとは思う。

(会長)

ほかにいかがか。

(委員)

先程の方と同じような意見になるけれども、先程説明があった、こころふれあいバスおおぞら号。デマンドバス運行協議会をつくられて運行しているという説明を受けたのだけれども、これは長都・中長都・釜加だけに留まっているが、今後これをもう少し拡大していくのか。私は向陽台に住んでいるけれども、向陽台の高齢化率も40%を超えてしまっていると、そういう状況になってきて将来を考えるとなかなかバス停まで行くのが大変というお年寄りが沢山いるので、できればこういう乗り合いバスというか、これが少し増えてくれると嬉しいなというふうに思うので、是非ともこれも計画にあげていっていただき拡大していただきたいと思う。

(会長)

ご意見については今後の参考にさせていただきたいと思う。長都地区のデマンドバスは、地域で運転手として協力していただける方が2人いらっしゃるということと、その辺りの経過を積み上げていって地域に理解をいただいて、それぞれ各世帯から負担金を出していただいているということで、ある程度上手くいっている部分があるかなと思っている。同様のケースで東千歳地区というところも、かなり広い範囲であるが、別のやり方をしていることもあり、収支的にも相当厳しいというか、それぞれの地域性でかなりその辺の課題はあるかなと思っている。

向陽台地区についても高齢化の状況だとか、地域の課題というのは私共も認識は

しているのです、高齢化率が高いところはほかにもあるけれども、その辺、どうしたらよいのか、色々なご意見をいただきながら検討していきたいと思っている。

ほかにかがが。バス事業者さんの方からこの機会に何かご発言はあるか。計画の関係など、これから進めさせていただきたいと思うけれども、今日は運輸支局からも来られているが、何かご意見等あるか。

(委員)

今回の法改正で計画の目標設定というのは非常に重要視されているので、基本的な考え方を踏まえて、そこの部分の目標設定についても検討いただき、私自身、他のまちの協議会の計画に携わっているのだが、コロナの状況もあって目標設定も現状維持みたいなかたちで整っているものが多くなっているが、長期的な計画のため、少なからずとも何か改善されて数値目標が上がるような、そういう目標値を今後検討し計画策定をいただければと思う。

(会長)

石狩振興局さんからも何かご意見はあるか。よろしいか。

先程これからの策定のスケジュールの説明があったけれども、まだ時間はありそうだなと思いつつも、次の5月である程度の案をご提示させていただくということになれば、関係者の皆さん、特にバス事業者さんなどとの協議の時間も必要なので、3月からも結構タイトなスケジュールかなと思っているけれども、その辺は精力的にやらせていただきたいなと思っている。

ほかはよろしいか。まだご発言されていない方も何かあるか。

(委員)

わかりやすくアンケートをまとめていただいたのだけれども、アンケートをまとめ、結果を導き出していただき、他市などとも比べて、千歳市がこれから最優先課題として、ここを良くしていったらもっとバスが良くなるだろうなと感じたこととかあれば教えてほしい。

もう一点あり、キウス周堤墓群について広報ちとせにも掲載されたのだが、来年度からキウスでのガイド事業が始まるにあたり、そこに行くまでの足が全くないということで、イコモスから公共交通がないと言われている状況なのだが、バスが難しいとなればデマンドバスとか、それこそ貸切タクシーなどを走らせることは可能であるのか。

(会長)

まず一点目を日本工営さんから。

(日本工営)

千歳市ならではのようなところ、どうしたら千歳市が良くなるかということ

ろだが、他市町村とかと比べると、バス路線の運行本数だとか、そういったもの自体は、空港があるということもあり、水準としては、千歳市はかなり恵まれている方にあるかなと思っている。

ただ一方で、自動車の利用者というのかなり多いというのも事実なので、このまま皆さんが公共交通を使わないと、せっかく今の高い水準というのがどんどん衰退していき、将来使いたいときに無くなってしまう。千歳市は、今はまだ高齢化率が低いけれども、やはり今後どんどん高齢者が増えていったときに、今の若い人が困ってしまうことにならないように、若い人が多くいて元気のある今のうちに将来のことを、少し長期的なスパンを見据えながら公共交通をみんなで守っていくというところをやっていくと、5年後10年後も千歳市が住みやすいなというまちになるのではないかと思う。

(会長)

続いて、世界遺産の関係だと思うけれども、まさに今年正念場を迎えているということで、順調にいけばコロナの影響で視察などの影響があるが、順調にいけば夏以降の7月頃に良い話しが聞けるのかなと期待をしているのだけれども、アクセスの問題、この辺は事務局から。

(事務局)

キウス方面の今の状況であるが、現状として路線バスとか都市間バスは一切走っていない状況である。一つ関連深いところとしては、東千歳地区のジャンボバスが東千歳の地域と泉郷の方のルートを通して国道337号線を通してまちにきているというような交通手段がある。これについては、東千歳地区の協議会の方で設定したバスということで、一般の方は乗っていないと思うけれども、先程、長都デマンドバスの関係の話もあったが、東千歳地区について、費用負担に地域差があるというところもあり、これからどういった運行方法がよいかというところを地域の方と話し合っていきたいと考えているところである。

それとコラボしてキウスのところも何か出来ないかとか、あとは、どのくらいの人移動が想定されるかということもあるけれども、本当に最初の最初はおそらくどっと来られるのかなという気もするが、そういった場合はやはり路線バスというよりは、例えば千歳駅からキウスへのシャトルバスを、費用負担の問題もあるけれども、貸切契約を結ぶなりして、そういったバスの運行を、費用はかかるかと思うけれども、今思い浮かぶのはそれくらいであるが、東千歳のバスの検討をするときには、難しい部分はあるが、キウスの関係も少し含めながら考えていきたいとは思っているところである。

ただ、来年度の7月ということなので、そこに合わせて何かやるというのであれば、貸切バス、シャトルバスを運行してもらおうという方法しかないという気がしている。

(会長)

現状としてはそのような状況ということでよろしいか。ほかにいかがか。

(委員)

今回の計画に関する事ではないが、利用者、特にご高齢の方からの声で、特に冬期間、縁石と低床型バスのステップに隙間が生じると。そうすると杖を突いている方などが乗りづらい。そういう時にもう少し縁石に寄せて停車をされて、且つ、運転手さんから注意喚起というか、「滑ります」とか「隙間がありますので気を付けて乗ってくださいね」という思いやりの声があればバスを利用すると思うが、そういうことがないとタクシーで行ってしまう。そのような利用者の声を聞いたもので、言わせていただいた。ということで、なるべく利用者の要望に叶った運行をしていただきたいということである。

(会長)

そういう声があるということである。ほかにいかがか。札幌開発建設部さんも来ていただいているが何かコメントあるか。よろしいか。札幌建設管理部さんいかがか。

(委員)

個人的というか、昔から思っていたことがあり、私もよくバスを使う身ではあるのだけれども、バスは大きい車両が多いと思う。先程のふれあいバスおおぞら号、これは一般の車両だと思うけれども、今後、バス交通を考えていく上で、車両はコンパクトなものが良いのか、大きいものが良いのか、わからないで言っているけれども、そういう考え方というものはあるのか。

(会長)

これは具体的にバス事業者さんにお聞きしたほうが良いような気がするが、いかがか。

(委員)

車両についてだが、利用者が減ってきて中型がいいのではという声をよく聞くのだけれども、結局、朝と夕方の時間帯は結構乗られて、昼間あまり乗られていないというのをよく見受けられる話で、そうすると事業者の立場として大は小を兼ねるといことで、大きいのを持っていて朝にも対応していくと。逆に小さい方に合わせてしまうと、混雑時間帯に2台出さなくてはいけないとか、朝は使えなくて昼だけ使うとなると車両の運用上非常に効率が悪いものであるので、できるだけ大きい車をとというのが事業者の考え方としてはある。

それに加えて最近では経営状況もあり、新車を購入できないということもあるので、東京方面から中古を購入しており、各事業者さんによって考え方に違いがあると思うけれども、基本的には大は小を兼ねるといスタンスかなとは思っている。



(会長)

それでは資料3-1、3-2、3-3と色々なご意見いただきましたが、ほかにご意見等はあるか。特になければ千歳市地域公共交通計画及び千歳市地域公共交通利便増進実施計画の策定については協議済みとさせていただいてよろしいか。

(一同：意義なし。)

### 3 話題提供

#### (1) 公共交通の利用促進に関する取組について

市民協働事業 みんなで守ろう路線バス事業について

Project C ちとせの近未来を考える会 会長 榊原 達也 氏

(会長)

次に会議次第3話題提供ということで、冒頭にご説明、ご案内差し上げたとおり、市民協働事業みんなで守ろう路線バス事業について、市民団体 Project C ちとせの近未来を考える会の会長である、榊原委員から路線バス PR に関する取組のご説明をお願いしたい。

(榊原委員)

市民協働事業として、昨年度はバス停市のイベントだったり、千歳出身のイラストレーターにイラストを描いてもらい、時刻表を配ったりというような事業を市民協働で市と一緒にやらせていただいた。

今年はコロナであまり出来ていないのだけれども、去年やらせてもらった初音ミクなどをデザインしている KEI さんがデザインした高校生のキャラクターを使ってこのようなクリアファイルを作ってみて、高校生に配っていくような活動を今年はしたいと思っている。ちゃんとの折込で配ることとしているリーフレットであるが、表にはバス4社の写真が載っており、裏には感染防止対策などを記載している。北海道運輸局のHPには、路線バスは約3分、タクシーだと約1分半で車内の空気が入れ替わるということが載っている。ここにも書いているが、抗ウイルス加工の実施や消毒液の設置なども行っているの、こういうところをアピールして公共交通が安心安全だということを PR するような活動を今年はやっていききたい。今日のアンケートの発表にもあったように、安心とか安全というのを市民の方は気にしていたり、本日の話にもでたように、市民の方が主体的に活動をするのがこの協議会の役目でもあると思っているので、僕も市民として参加しているのだけでも、バスが無くなってしまいうんじゃないかなって思うところがあり、今日コンサルの方が言っていたように、千歳は本当に恵まれているまちであるし、バス路線も恵まれているとすれば、市民はなかなか危機感がなく関係ないとなりがちなので、少しでもそういう気持ちが変わってくれる市民が増えたらいいなと思って活動してきた。

(会長)

私からもこの取組にはお礼を申し上げたいと思う。このパンフレットもいい。このファイルも学生に配るが、今お手元にあるので、皆様方もご家庭で是非使っていただければと思っている。今ご説明があった、みんなで守ろう路線バス事業について何か聞きたいことがあればご発言お願いしたいと思うがいかが。

特になければ話題提供ということでは以上になるが、その他、全体を通して何か言い忘れたこと等あればご発言お願いしたいと思うがいかが。よろしいか。それでは最後に事務局から連絡をお願いする。

(事務局)

色々なご意見をいただき、これからの見直しに少しでも反映していきたいなと思ったところである。今年度は、このように皆様に集まっていただく協議会については今回で終了となる。委員の皆様、日頃から協議会の運営にご協力いただき感謝申し上げます。次回の開催については5月頃に開催を予定している。詳細については1か月前くらいを目途にご案内をさせていただきたいと考えており、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(会長)

それではまた新年度に入り5月頃、またご案内させていただく。その折はまたご協力いただきたいと思います。それではこれを持って本日の協議会を終了させていただく。

以 上